

# 観光物産拠点施設整備事業

—No.19 越谷市—

## 【事業の内容】

観光・物産などの地域資源を広くPRする施設を東武スカイツリーライン越谷駅東口高架下に整備（敷地面積約 260 m<sup>2</sup>）し、日光街道の宿場まち「越ヶ谷宿」の玄関口でもある越谷駅東口のにぎわいを創出するとともに、“こしがや”の魅力を内外に発信し、地域の活性化やシビックプライド（郷土愛）の醸成を図ります。

また、首都近郊の交通の要衝であり、浅草、東京スカイツリーや日光へのアクセスが容易であるという地理的要件や草加、越ヶ谷、粕壁、杉戸、幸手、栗橋を繋ぐ日光街道埼玉六宿の歴史的背景等を生かし、関係者（事業者や自治体等）との連携により広域的なプロモーションを実施することで、集客・送客を軸とした地方創生に取り組みます。

## 【事業年度】

平成 28 年度

## 【予算額(千円)】

77,240千円

## 【財源】

ふるさと創造資金（県）、一般財源（市）

## 【事業実施に至った背景・経緯】

越谷市は、高度経済成長期以降、東京から 25km 圏内という立地から、首都近郊のベッドタウンとして開発が進み、平成 27 年 4 月 1 日、中核市に移行するなど発展してきました。

また、「越谷レイクタウン」には、アジア有数の大型商業施設を核として、年間約 5,000 万人が来訪しています。

さらに、東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、インバウンド

観光による外国からの交流人口の流入とあわせ、日本全国からの交流人口の流入も期待されています。

一方で、高齢化はこれまでにない速度で進み、長期的には人口減少に転じると予想されています。今後、地域内消費の減少により地域経済が縮小し、さらには、地域の魅力や活力の低下につながるものが懸念されています。

観光物産拠施設の整備により、観光物産をはじめとする多彩な“こしがや”の魅力を発信することで、魅力ある越谷ブランドを確立し、住んでよかった、訪れてよかったまちづくりを進めます。

## **【事業のPRポイント】**

日光街道「越ヶ谷宿」を再現した外観および内装とするとともに、テーマ性やアトラクショナルな要素を持たせ、来訪者が楽しみながら“こしがや”の魅力に触れられる施設として整備します。

また、施設の壁面をスクリーンとして活用し、日本三大阿波踊りの一つと言われる南越谷阿波踊りや農地を地域資源として活用した田んぼアート事業などの魅力ある観光イベントの様子や多彩な観光資源を映像・音楽として上映し、観光や交流の促進ツールとして活用します。

さらに、大型鉄道ジオラマを設置するなど、鉄道沿線を中心とした広域観光のプロモーションに取り組みむとともに、宿場町や阿波踊り、いちごなどの観光資源などの地域の特色を生かして、他の地域の観光資源と結ぶ事業を展開し、まちのにぎわいを点から線へ、線から面へと高次元に創出し、相互の活性化に結びつけます。

## **【事業実績・成果・今後の展開】**

“こしがや”を「案内する」、「食する」、「体験する」、「持ち帰る」など地域の魅力を発信する各種事業を展開し、都市イメージの向上やシビックプライド（郷土愛）の醸成を図ります。

〔 連絡先 〕

環境経済部観光課 048(967)1325(直通)